

地域移行通信

第47号 令和2年3月発行

世田谷区 自立支援協議会 地域移行部会

地域移行だよ!
全員集合

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

〈世田谷区自立支援協議会 地域移行部会〉

精神科病院の入院患者等の退院促進に向け、関係機関の情報交換や課題への対応策等の検討を行っています。

今回は、
第3回地域移行部会の開催状況と、今年度の活動状況の報告についてお送りします。

令和元年度第3回 地域移行部会を開催しました



『誰でも』地域移行部会（稲城台病院編）

日 時：令和2年2月20日（木）午後

場 所：稲城台病院（東京都稲城市）

参加人数：46名（稲城台病院スタッフ、その他の病院関係者、地域支援者、行政等）
＋地域移行部会メンバー

令和元年度第3回目の『誰でも』地域移行部会は、稲城市にある稲城台病院で開催しました。今回の地域移行部会は世田谷区民の方が入院されている遠方の病院での開催となりました。参加者全員が部会の前に稲城台病院の見学を行い、病院のご紹介、ご説明をいただきました。また、世田谷区で実施した、世田谷区長期入院患者の状況についてのアンケート調査の速報結果報告と来年度の取り組みについてご報告を行いました。さらには、稲城台病院より模擬事例を提供していただき、模擬事例を踏まえてのグループワークを行いました。





稲城台病院スタッフ、その他の病院スタッフや、地域支援者で構成する6～7人ずつ、9グループに分かれ、グループワークを行いました。

◎事例について

稲城台病院の精神科療養病棟に長期入院中の方を元にした模擬事例について、担当の精神保健福祉士より紹介いただき、地域移行に向けて、病院スタッフ・地域支援者の参加者それぞれが、事例についての「強み」「心配なこと」「自分が担当だったら何ができるか」について話し合い、以下のような意見が挙がりました。

○「病院スタッフや地域支援者の感じた強み」として、以下の主な内容が挙げられました。

- ・素直、真面目、拒否はなく応じてくれる、理解力がありコミュニケーションできる
- ・自分の言いたいことを言うことができる
- ・自宅へ帰りたいたいという気持ち、意思がある
- ・関係のよい母がいる、家族を思いやれる
- ・趣味、好きなことがある

また、その他に特に地域支援者からは、

- ・退院後の住まいがある、就労経験がある という強みも挙げられました。

★全9グループで挙げられた、「本人の強み」の数は、なんと180個！！になりました。

○「自分が担当だったら何ができるか」については、以下の主な内容が挙げられました。

(病院スタッフからの意見)

- ・本人へ、今後どうしていきたいか、家族に対する気持ち等の話をする時間をもつ
- ・病院内の多職種（医師、看護師、作業療法士、ソーシャルワーカー）と情報共有、支援方針を確認
- ・本人のできていることを褒め、できていることから自立に向けての働きかけ、車椅子から歩行器へトライ、生活リハビリや、内服自己管理へ向けたアプローチ
- ・地域の支援者と相談、本人へも紹介
- ・病院外への外出、外泊の同行や促し、施設見学や、ピア講演会への参加、社会参加へつなげる支援
- ・母への支援、家族全体への支援

(地域支援者からの意見)

- ・病院へ訪問して会いに行き、希望や意向、好きなこと等話をする
- ・本人の好きな音楽、バンド、ギターについて、話をする、一緒に外出してCDを探しに行く、好きな音楽を聴いたり演奏のできる地域の活動やボランティア等がないか探す等、楽しめる機会づくり
- ・地域の社会資源の情報提供、地域へのつなぎ
- ・グループホーム探しや見学同行、体験宿泊、その他でデイケアや訪問看護等のサービス利用の支援
- ・ピアサポーターとの交流、話を聞ける機会をつくる
- ・母への支援

今回のグループワークでは、稲城台病院のスタッフにそれぞれのグループに一人ずつご参加いただきました。また、地域の支援者や他の医療機関 等様々な職種により検討することによって事例について具体的により深い意見交換を行うことができました。

アンケート

今回の『誰でも』地域移行部会には定員を超える多くの方に、参加申込をいただきました。最後に参加された方のアンケートをご紹介します。

Q：今回の地域移行部会にご参加いただいた理由は何ですか？

理由	回答数
①地域移行・地域定着に関心があるため	30
②地域移行部会のアクションプランに関心があるため	6
③稲城台病院との連携のため	11
④地域支援者との連携のため	13
⑤研修、勉強のため	33
⑥参加するよう指示があったため	3
⑦その他	1

⑦その他（内容）：稲城台病院を見たいと思っていたため。

Q：今回の地域移行部会はいかがだったでしょうか？

	回答数
①とても良かった	36
②良かった	7



- ・病院と地域の垣根が低くなったと感じることができた。
- ・顔の見える関係づくりができた。
- ・何度か出席しているが自分の病院に持って帰れる要素が見つかった為。
- ・地域支援者と事例検討することにより、病院内にいたら得られないような意見、ひきだしを教えてください、とても参考になりました。
- ・実際の地域移行部会の場を知ることで改めて地域連携の重要性を理解しました。医療も地域も持ちつ持たれつなのではないかと感じました。
- ・グループワークで受けるにあたり、どんな形の連携がご本人にとって必要になるのか、具体的に想像し検討することができた。また、退院がその方にとってどんな意味になるのかも理解を深められた。
- ・入院されている患者の方に対して地域でできる事、ニーズを具体的にイメージすることができた。
- ・他院を見学させて頂くことが滅多にないので、見学できてよかった。
- ・同じことも視点が違う人を見ると、様子が違って見えることを体験できました。これをご本人の支援に活かしたいと思いました。

Q：今回の地域移行部会において、得られたもの、理解が深まったもの、今後の業務において活かそうこと等ありましたか？

- ・地域の方々とお話してケースに対する考え方も変わりました。
- ・いろいろな人の意見を聞くことによって、得られる情報、物事の捉え方を前向きに変えることができることを実感した。
- ・地域、病院、それぞれでできることの認識がズれていることがあると分かったので、その齟齬をなくすためにも密な話し合いが必要だと感じました。
- ・地域、病院で線引きせず、それぞれが熱意、想いを持って支援されていることを改めて実感し、明日からよりよい連携ができるのではないかと希望ももてた。
- ・病院への連絡をするハードルがあったが、病院側がもっと地域と連携したいという思いが分かったため敷居が低くなって良かった。
- ・退院支援（地域移行）に、入院時からでも関わられる可能性を感じました。

普段はなかなか直接お会いしてゆっくり話し合う機会の少ない、病院スタッフと、地域の様々な立場の支援者が、事例について、何ができるかを話し合い、退院後の地域生活のイメージを共有することができました。また、今後につながる顔の見える関係づくりの一歩となりました。



世田谷区自立支援協議会 地域移行部会の活動計画 (アクションプラン)をもとに2019年度の活動状況を報告します。

①『誰でも』地域移行部会の開催（年2回程度）

- 第1回 令和元年7月11日（木）午後
場所：昭和大学附属烏山病院 参加人数：50名
- 第2回 令和元年10月30日（木）午後
場所：東京リハビリテーションセンター世田谷 参加人数：55名
- 第3回 令和2年2月20日（木）午後
場所：稲城台病院 参加人数：46名

*詳しい内容については、地域移行通信第45号～47号をご覧ください。

②区内病院での地域移行部会の開催（年1回程度）

- 第1回地域移行部会として実施しました。

③地域移行部会として世田谷区から距離のある病院へ出向く（年1回程度）

- 第3回地域移行部会として実施しました。

④ニード調査を実施していきたい

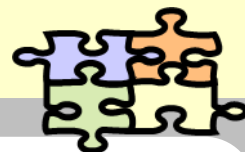
- 世田谷区長期入院患者の状況についてのアンケート調査を実施し、速報結果を第3回地域移行部会にてご報告しました。アンケート結果に基づき、世田谷区としての取り組みを進めていく予定です。

⑤アパートが借りやすくなるためのマニュアル作り

- 第2回地域移行部会では世田谷トラストまちづくり 住まいづくり課の方もご参加いただき居住支援についてグループワークを行いました。このような機会をマニュアル作りの一助としていきたいと考えています。

⑥地域移行支援の事例集の作成

- 病院で地域移行部会を実施した際には、グループワーク内で事例検討を実施しています。今まで取り組んできた活動を生かして、今後取り組んでいきたいと考えています。



地域移行部会で大切にしていることは、精神科病院を退院して、世田谷区で自分らしく生活することができるために、何ができるか？どうしたら良いか？を具体的に考え、自分の言葉で話をして、知恵を出し合うことです。

引き続き、精神科病院に入院している方への退院促進に向けた支援のあり方や課題を検討します。今後も皆様のご参加をお待ちしております。
また、取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

【事務局】

世田谷区障害福祉部障害保健福祉課
世田谷保健所健康推進課

電話 03(5432)2247
03(5432)2947